

快適な休憩空間が街なかでの滞在に及ぼす影響について

秋田大学 学生会員 ○南出 拓也  
秋田大学 正 会 員 木村 一裕  
秋田大学 正 会 員 日野 智  
秋田大学 正 会 員 鈴木 雄

1. はじめに

現在、多くの地方都市の街なか（中心市街地）では空洞化が進んでいる。その理由は様々であるが、一つとして街なかには訪れた人にとって過ごしやすい環境が整っていないことが考えられる。そして、それが街なかへ人々が訪れなくなることや、訪れても滞在時間を十分に取らなくなる原因となるとも考えられる。本研究では街で長く過ごしている人の行動パターンや街での過ごし方に対する意識、人々が街を長く散歩してみたくなるために休憩空間に必要な空間的要因を把握することで休憩空間の改善による街への経済的な波及効果（買い物や飲食などの増加）を示すことを目的としている。

2. 分析方法

本研究では街なかに快適な休憩空間があれば人々の街なかでの滞在時間が増加し、街なかへの経済的な波及効果が生み出されるという仮説を立てた。その仮説を証明するためのアンケート調査を学生と住民を対象に行い、街なかでの行動を把握するとともに休憩空間に対する意識について写真を用いることで調査し、街なかに必要とされる休憩空間の特徴、街なかへの経済的な波及効果について考察した。アンケート調査の概要は表 1 に示す。

表 1 アンケート調査の概要

|      |                                      |
|------|--------------------------------------|
| 対象   | 秋田大学学生、秋田市住民                         |
| 回収部数 | 秋田大学学生:48部<br>秋田市住民:56部              |
| 調査内容 | 街なかと郊外での行動実態、休憩空間の評価、街なかの効果への期待度、属性等 |

また、表 2 にアンケート調査の主な調査結果を示す。街なかへ行く際の同行者はひとりが最も多くなっている。街なかに行く頻度が郊外 S C（郊外型ショッピング

センター）に行く頻度よりも多い人を「街なか派」、郊外 S C に行く頻度が街なかへ行く頻度よりも多い人を「郊外 S C 派」と定義し、両者の中間も設ける。結果として 20 代と 60 歳以上の人は街なか派が多く、30～50 代の人は郊外 S C 派が多くなった。

表 2 主な調査結果

| 項目          | 結果                                                |                                     |                            |         |
|-------------|---------------------------------------------------|-------------------------------------|----------------------------|---------|
| 性別          | 男性63% 女性37%                                       |                                     |                            |         |
| 年齢          | 20代:48%<br>60代:10%                                | 30代:4%<br>70歳以上:9%                  | 40代:14%                    | 50代:15% |
| 街なかへの交通手段   | 徒歩:18%<br>バス:7%                                   | 自転車・バイク:31%<br>鉄道:1%                | 車:42%<br>タクシー:1%           |         |
| 街なかへの同行者    | ひとり:56%<br>子供:4%                                  | 友人:21%                              | 親:1%<br>配偶者:18%            |         |
| 街なかへ行く頻度    | ほぼ毎日:10%<br>月2～3回:21%<br>ほとんど行かない:13%             | 週2～3回:17%<br>月に1回:10%               | 週1回:12%<br>数カ月に1回:17%      |         |
| 街なか派か郊外SC派か | 20代 街なか派:61%<br>30～50代 街なか派:37%<br>60歳以上 街なか派:67% | 郊外SC派:23%<br>郊外SC派:43%<br>郊外SC派:11% | 中間:16%<br>中間:20%<br>中間:22% |         |

3. 街なかでの行動の実態

図 1 に街なかと郊外 S C での長いときの滞在時間を示す。図 1 より街なかでの滞在時間は郊外 S C よりも短い結果となり、3 時間以上街なかで過ごす人は少なかった。本研究では長いときに 3 時間以上街なかで滞在する人を「街なかで長く滞在する人」と定義する。

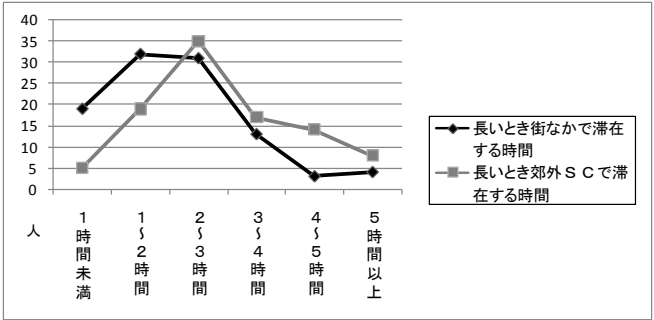


図 1 長いときの街なかと郊外 S C で滞在する時間

図 2 に街なかで休憩する人の過ごし方、図 3 に街なかで予定以外の買い物や飲食をする人の過ごし方を示す。図 2、図 3 より街なかで長く滞在する人は長く滞

在しない人よりも休憩と予定以外の買い物・飲食の両方を行うことが多い結果となった。

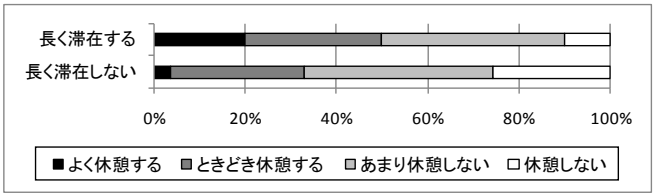


図2 街なかで休憩する人の過ごし方

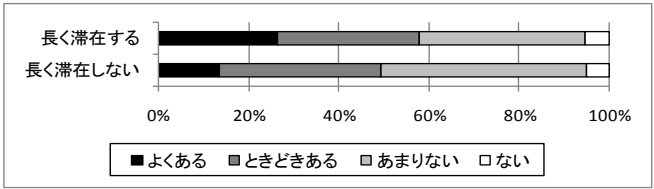


図3 街なかで予定以外の買い物や飲食をするかどうか  
街なかで予定以外で購入するものとして挙げられた  
主なものを表3に示す。

表3 予定以外に購入する主なもの

|       |                                      |
|-------|--------------------------------------|
| 買い物関係 | 生活用品、衣類、雑貨、本、スポーツ用品、<br>趣味のもの、アクセサリ  |
| 飲食関係  | カフェで休憩、スイーツ、パン、缶コーヒー、<br>お菓子、アイスクリーム |

街へ行く交通手段と交通手段の関係で帰りの時間を気にすることがあるかを示したものが図4である。

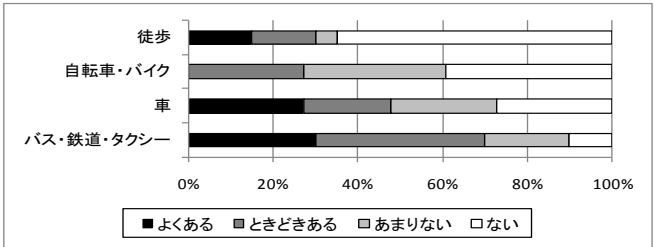


図4 交通手段と帰りの時間を気にすることがあるか

図4より、街なかで帰りの時間を気にするのは車やバス・鉄道・タクシーで街なかへ訪れた人が多いことがわかる。一方、帰りの時間を気にしないのは徒歩や自転車・バイクで街なかへ訪れた人の割合が高くなった。そして実際街なかで滞在する時間が長かったのは徒歩や自転車・バイクで街なかを訪れた人であったので、駐車料金や交通の時刻に左右されない方法で街へ訪れた人の街での滞在時間が長くなることが考えられる。

4. 休憩空間に関する評価

休憩空間の12枚の写真に対して、長く滞在する人と長く滞在しない人のタイプ別に休んだ後に街歩きを続けたいと思う休憩空間（各タイプ2つ）とその空間についてどう思うかを表4で説明する。

表4 休憩空間と空間についてどう思うか

| 長く滞在する人<br>長く滞在しない人 | 長く滞在する人      | 長く滞在しない人       |
|---------------------|--------------|----------------|
|                     |              |                |
| 写真A                 | 写真B          | 写真C            |
| 街並みや風景を眺められてよい      | 飲食ができそうでよい   | 街並みや風景を眺められてよい |
| 明るくて開放的な感じ          | 人の動きが眺められてよい | 明るくて開放的な感じ     |

表4より、休んだ後に街歩きを続けたいという気になる休憩空間として2つのタイプから選ばれた休憩空間は写真Aの空間であった。この空間についてどう思うかという評価に関しては各タイプとも街並みや風景を眺められてよい、明るくて開放的な感じという項目で高い評価となった。また、写真Bの空間が長く滞在する人に飲食ができそうでよい、人の動きが眺められてよいという項目で高い評価となった。これより、長く滞在する人は飲食のできる休憩空間も求めていることがわかる。長く滞在しない人は写真Cを写真Aと同じような評価をして選んだ。次に図5より、写真A、写真B、写真Cの各空間は街なかに足りていないと多くの人に感じられていることがわかる。

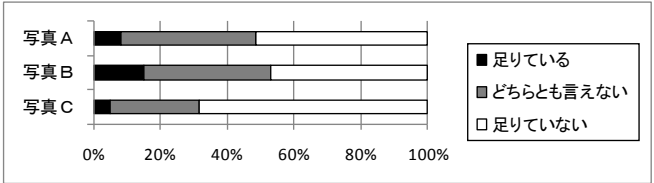


図5 休憩空間が街なかに足りているか

5. まとめ

今回の調査より、街なかで休憩を行うかどうかや街なかへの交通手段が街なかでの滞在に影響を及ぼすことが示された。また、街なかで長く滞在する人も長く滞在しない人も開放的で街並みや風景を眺められるような休憩空間があれば街なかでの滞在時間が増加することが示された。ただし、現在街なかにそのような休憩空間が足りていないという状況にある。今後、開放的で街並みや風景を眺めて座っていただける休憩空間の整備や、街なかでの滞在時間の増加による影響が及ぼされない交通体系の整備を行えば人々の街なかでの滞在時間が増加し、買い物・飲食の機会の増加といった経済的な波及効果が生み出されることに結び付くのではないかと考えられる。